

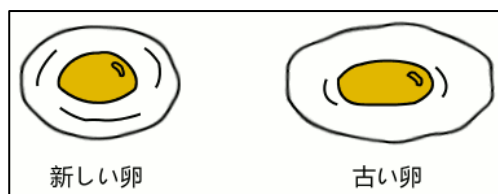
令和6年度

On the Road

高松市立円座小学校



「なるほど」となった子どもたちの答え（本校の話ではないのですが）



その1 「図のような2つの卵があります。あなたは、どちらを食べますか」という問題があります。これは、子どもたちに新しい卵を選ばせるための問題だと思われます。ちなみに、「新しい卵は、黄身がこんもりし、卵白がただれない」「古い卵は、全体がただれ、卵白が水っぽい」と言われています。

この問題に対して、ある子どもは「平べったいほう」と答えたそうです。問題の意図からすると、この答えは不正解となるでしょう。

しかし、その答えを出した子どもは、黄身が盛り上がっている方が新しい卵だと知っていました。それでは、なぜ、「平べったいほう」と答えたのでしょうか。

その子どもは、日常的に、冷蔵庫から取り出す食品の賞味期限に差があるときは、古い方から食べていたそうです。子どもにしてみれば、自分の経験にもとづいて、自分なりの答えを出したのでしょう。もしかして、新しい卵は、家族の誰かのために取っておきたいと考えていたのかもしれませんが。はたして先生は、その子どもの答えだけで、学習内容を理解していないと判断してもいいのでしょうか。

その2 「ひろきさんは500円もっています。コンビニで250円のおかしを買いました。おつりは何円でしょう。」おそらく、出題者は生活場面に則した問題をつくりたかったので、「残りは何円」にせず、「おつりは何円」という問題にしたのでしょう。この問題に対して、ある子どもは「50円」と答えたそうです。計算ミスではないのに、なぜ「250円」ではなく「50円」なのでしょう。

実際の生活の中では、子どもたちの財布の中に500円玉1枚だけ入っているということは、かなり珍しいことです。100円玉やその他の硬貨を合わせて500円になることが多いのではないのでしょうか。その子は、どうやら100円玉3枚で支払ったことを想定したようです。ですから、おつりは「50円」になるのです。先生が「50円」に興味をもって、その子に理由を発表させたところ、その後、学級内で、その他の答えで大いに盛り上がったそうです。例えば、100円玉2枚と50円玉1枚で250円の支払いをしたので、おつりは「0円」とか。

先生方は、子どもの学習課題については、なるべく身近な生活と関連付けて関心を高めようと苦労します。**その2**の問題については、500円玉であると問題文に明記すればいいじゃないかという考えがあります。はたして、問題作成者の意図をくみ、1つだけの答えを求めさせる学習課題が、子どもたちにとって、いい課題だといえるのでしょうか。ただでさえ、日本の学校教育に対して「先生が知っていることを、まるであたりまえのように子どもたちに聞くことが多い」「子どもは先生の顔色をうかがい、自分の考えを安心して言えなくなる」という批判があります。このことから、子どもたちから多様な考えを導き出せるような学習課題とは、どのようなものなのかを追究していく必要があります。そして、子どもたちが、お互いの意見を交わし合いながら得た新たな気付きをもとに、自己を取り巻く世界の見方、考え方を深く豊かにしていければ、子どもたち自身の学習意欲は、おのずと高まっていくのかもしれませんが。

校長 宮竹 弘樹